

発行—— 一般社団法人 日本統計学会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F (公財) 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局

Tel & Fax: 03-3234-7738

編集責任—鎌倉 稔成(理事長)/西郷 浩(庶務理事)

鈴川 晶夫(前広報理事)/竹内 惠行(広報理事)

北村 佳之(前広報委員)

振替口座—00110-3-743886

銀行口座―みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

E	次		
1.	会長就任のご挨拶 国友直人…1	10.	2013年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第三報)
2.	会長退任のご挨拶 竹村彰通…2		大屋幸輔・栗原考次・佐藤美佳…10
3.	理事長就任のご挨拶 鎌倉稔成…3	11.	統計検定合格者の声(続) 国友直人…14
4.	理事長退任のご挨拶 岩崎 学…4	12.	定時社員総会報告17
5.	第18回日本統計学会賞について 竹村彰通…4	13.	臨時理事会・委員会報告24
6.	第9回日本統計学会統計活動賞について	14.	第 1 回通常理事会報告26
	竹村彰通… 6	15.	日本統計学会会長選挙報告
7.	第9回日本統計学会統計教育賞について		
	竹村彰通…7	16.	修士論文・博士論文の紹介27
8.	第7回日本統計学会研究業績賞について	17.	学会事務局から27
		18.	投稿のお願い28
9.	第27回日本統計学会小川研究奨励賞について		
	竹村彰通… 9		

1. 会長就任のご挨拶

国友 直人(東京大学)

2013年6月に日本統計学会会長に選出され、学会運営のお手伝いをさせて頂くことになりました. 私は日本統計学会には30年ほど一会員として参加していますが、日本における統計学分野における最古にして最大の学会である日本統計学会の会長に選ばれたことにつきましては光栄に存じています。鎌倉新理事長をはじめ、理事と評議員の方々と共に日本における統計学・統計科学の発展に少しでも寄与できれば幸いです。

日本統計学会を創立した方々の名簿を拝見すると,数理系の先生方はむろん1930年代における経済学分野の著名な諸先生のお名前を見いだします. 日本統計学会はその創立の時代から統計学・統計 科学の発展に関心のある応用分野を含む複数 の研究分野の研究者が 集まったという経緯が あり、この伝統は統計 学の理論と応用が脚光 を浴びつつある現代に おいてますます重要な 原点と思われます.



様々な研究分野にはそれぞれ固有の問題,固有の 発想,固有の方法,固有の課題などがありますが, 「統計学・統計科学の理論と応用」という視点よ り研究・教育を進めて,他分野の展開や発想を学 ぶことにより新たな展開が広がっていくことも少なくないと思われます. 経済学分野に関係しては、例えば (様々な評価もあり得ますが) これまで既に計量分野や統計学的研究がノーベル経済学の受賞理由となったことが一人や二人では無いこと、などが分かりやすい例ではと思われます.

この間,日本統計学会では竹村彰通前会長や岩崎学前理事長などをはじめ多くの関係者のご尽力により「統計検定」を企画し、実施しています. 残念ながら、日本には(統計数理研究所を例外として)今もって世界の主要な先進国・中進国では当然のように主要な大学・大学院では存在している十分に充実した形での統計学専門の高等教育機関がほとんど整備されていない状況に置いて、特筆すべき試みと評価しています。今後もこうした統計学・統計科学の発展・普及につながる未来志向の試みについては関係者と共に協力して活動を行って行きたいと希望しています。近年では遅ればせではありますが、統計学・統計科学の発展や

応用上の役割に期待する声が日本の社会, 例えば 経済界・教育界などで高まりつつあります.

統計学・統計科学に関する前向きな動きもある 中で初心を忘れず、会員各位のご協力のもとで着 実に日本統計学会を発展していきたいと存じます.

略歷

国友直人(くにともなおと) 統計学 MA, 経済学 Ph.D. 1975年 東京大学経済学部卒業 1977年 東京大学経済学研究科修士課程修了 1981年 スタンフォード大学統計学 MA, 経済学

1981年 ノースウエスタン大学経済学科助教授 1982年 東京大学経済学部助教授, 同教授を経て 2011年より東京大学経済学研究科長・経済学部 長

研究分野 統計学・経済統計・計量経済・計量ファイナンス

2. 会長退任のご挨拶

竹村 彰通(東京大学)

2011年1月からの2年半は、岩崎学理事長(2期連続)や庶務理事をはじめとする理事会の皆様に支えられて何とか任期を終えることができました。特に、私自身は2011年11月に開始した統計検定を軌道に載せることが当面の重要な関心事となり、庶務、編集、広報、大会などの統計学会の通常の業務はすべて理事の方々におまかせる形となってしまいましたが、安心してまかせることができました。

昨年3月のオバマ政権の Big Data Initiative の発表以来, にわかに我が国でもビッグデータが政府においても企業においても重要なキーワードとなっています. データには多くのノイズが含まれていますし, またデータの得られた過程を吟味しないとデータに含まれるバイアスの評価ができません. 従って, データの量だけではなく, データに

含まれる情報を正しく抽出するための統計的モデリングが不可欠です。このような理解は統計家には当たり前ですが、ビッグデータに関する最近の論調を見ても、データの量とそれを効率的に処理するアルゴリズムのみが強調され、データ処理から得られる結論の妥当性に関する議論は少ないように思われます。この点については、統計的な考え方がより広く正しく理解されるような統計家の側からの努力が必要と考えられます。

おりしも、統計学に関する啓蒙書がベストセラーになり、最近では例えば NHK クローズアップ 現代の番組でも統計学がとりあげられました.これもビッグデータ時代の中で、統計学の基礎的な知識や統計的な考え方の重要性が認識されつつあるためと思われます.この番組をご覧になった統計家の方は、その内容について様々な感想を持た

れたと思いますが、統計学の考え方を広く伝えるためには、学問的な正しさのみならず伝え方の工夫も重要な側面です。クローズアップ現代には、狩野前理事や岩崎前理事長が登場されましたが、番組の企画段階から統計関連学会の関係者も協力して内容についての助言をおこないました。今後、伝え方の工夫をしながら、統計学の考え方をいかに広く伝えていくのかは、統計学会にとっても重要な課題であると思います。現在の統計学への追い風を生かし、風向きを統計学の観点から見てより望ましい方向に向けて行けるかどうかが、統計

学会の今後を左右すると考えています.

このような中で、統計検定は統計学会にとって 中核的な事業であると思われます。まず、統計検 定の試験内容そのものによって、統計的な知識の 体系を社会に提示すること。そして資格認定によ って、さまざまのレベルで統計的な知識を習得し た者を認定すること、です。統計検定は今年で3 年目でまだ事業的には不安定な状況ですが、社会 から信頼される検定となるべく、統計学会の中核 的な事業として今後とも推進していただけますよ うご協力をお願いいたします。

3. 理事長就任のご挨拶

鎌倉 稔成(中央大学)

2013年3月2日に学習院大学で開催された,日本統計学会被選代議委員会で理事長に選出されました。

日本統計学会は、統計関連学会では最大のもの であり、その運営に携わらなければならないこと に躊躇しておりました。しかしながら、統計学を 取り巻く環境は、非常に高速で激流を下るラフテ ィングのようなものです. 一寸のためらいが大き な事故ともなり、まさにこの瞬間の舵取りが、統 計学のこれからの方向を決めてしまうかもしれな い, 待った無の状態であります. 御歴代のそうそ うたる理事長方の前に、私に何が出来るかと立ち 止り考えていては何も始まりません。皆さまの協 力を得て、まずは通常の業務を滞りなく進めると ころから開始です、美添会長、竹村会長、そして、 お二方を2期にわたり補佐された岩崎前理事長の 偉業である. 学会の法人化. 統計検定の設立等. その恒常的運営は、誠に大変であると自覚してお ります.

学会は研究者が集い、研究発表の場を提供し、 互いに切磋琢磨する場です。しかしながら、また 社会の要請に応える義務もあります。昨今、西内 氏の書かれるような啓蒙書が爆発的な人気を博し、 統計学に大きな期待が寄せられています。こうし た統計学に対する人気は、世の中には有り余るデータがあり、そのデータを何とか仕事に活かそうと思う人が多く存在するからであると考えます.

舵取りを間違えると 大変です. 大きな岩に



激突ともなれば、生き延びることすら困難となり得るのです。現在、理事会の中にふたつの臨時委員会を作りつつあります。そのひとつは専門書、啓蒙書、教科書を出版企画し、もう一方は、産学連携推進のための委員会です。そして前理事長から引き継ぎ、新しく国際担当の理事を置くこととしました。学会の国際化はこれからの学会に必要不可欠です。また、学問の根幹を構成する基礎理論についても、学会全体でサポート体制を取って行こうと考えております。

最後になりましたが、私が統数研に入所した頃は、日本統計学会の庶務担当は、統数研若手が務めるという慣例があったように覚えています。私はこの重要な仕事をしないまま出所してしまいました。理事長はある意味で庶務担当の役員と理解

しております. 何十年も経って今この仕事が回って来たのだと思うと, 私自身納得が出来そうです. 皆様のご協力を得て任期を全うしたいと考えております. どうぞ宜しくご協力いただけますようお願い致します.

理事長略歴:1953年長野県生まれ.1978年東京工業大学大学院理学研究科修士課程修了後,1980年より文部省統計数理研究所研究員となり,1987年には工学博士(東京工業大学)を得る.1985年よ

り中央大学理工学部専任講師・助教授を経て、 1995年中央大学理工学部教授となる。2005年から 2009年まで中央大学理工学研究科委員長を務める。 現在は同大学経営システム工学専攻指導教授を務 める傍ら、産学官連携・知的財産戦略本部長、統 計関連学会理事長も併任。

研究分野:生存時間分析における統計的方法.位 置推定のための統計的モデリング.空間データの センサーデータの統計解析.

4. 理事長退任のご挨拶

岩崎 学(成蹊大学)

2008年9月から2013年6月までの4年9ヵ月にわたり、理事長を務めました。この間、北川源四郎、美添泰人、竹村彰通という類稀な力量を有し、しかもハードワーカーでもある3代の会長の方々と共に仕事ができましたことは、私自身大いなる喜びであり、貴重な経験ともなりました。また、歴代の庶務理事をはじめとする各理事の方々、および各種委員会の委員の皆さん、そして会員諸氏のご協力とご支援を得て、何とか任期を全うすることができました。この場を借りまして御礼申し上げます。

私の任期中の大きな出来事は、学会の法人化と統計検定の開始でした。学会の法人化は、長年の 懸案事項でありましたが、これまでの制度ではハードルが高く実現は困難でした。しかし、公益法 人制度の改革によって法人化が比較的容易となり、この機を捉えて、日本統計学会は、一般社団法人 として生まれ変わりました。法人化に伴う定款や 各種規定の整備など、当時の美添会長および中西 寛子庶務理事のお力無くしてはなし得なかった一 大事でした。法人化により、日本統計学会は、名 実共に社会に認知される学術団体となりました。 これにより他の学会や団体との契約も可能となり、 今後のよりいっそうの発展が見込まれます。 統計検定の開始も大きな事業でした. 関係諸団体の協力,および基本的にボランティアベースでご尽力された多くの方々のおかげで,2011年11月20日に第1回の検定を実施しました.2012年5月には、The Royal Statistical Society (RSS) と契約を結び(これも法人化により可能となりました),英国と同一問題でのRSS/JSS 試験も開始しました.そして同年11月には、検定1級も加え、当初予定したフルラインナップでの実施となりました.本稿執筆現在(2013年6月)第3回目の検定に向けての準備が着々と進んでいます.

2013年になり、「最強の学問」と題した統計の一般書がベストセラーとなったのをきっかけに、統計学の社会での認知度が一段と高まりを見せています。これも、これまで我々の先輩の諸先生方および現在の仲間が、教育面および実践面で地道な活動をしてきたことが背景にあります。国友会長および鎌倉理事長の新体制の下、日本統計学会の今後の更なる発展が予感されます。

最後になりましたが、学会事務局の担当として、 私の至らぬところを補っていただくなど、会務遂 行においていつも的確なお仕事をしていただいた、 統計情報研究開発センターの阿部美和子さんに御 礼申し上げます、有難うございました。

5. 第18回日本統計学会賞について

[1] 受賞者氏名:照井 伸彦 氏

略歷:1983年 東北大学経済学部卒,1985年 東北 大学大学院経済学研究科修士課程修了,1990年 東北大学大学院経済学研究科博士課程修了 経済 学博士,1990年 山形大学人文学部経済学科助教授, 1994年 東北大学経済学部助教授,1999年~現在 東北大学大学院経済学研究科教授

授賞理由: 照井氏は、マーケティングデータのベイズ分析について多くの優れた研究業績をあげるとともに、ベイズ統計学の普及に貢献してきた.

企業のマーケティング活動に対する消費者個々の反応を推測するベイズ計量経済モデルの開発は、大規模マーケティングデータの分析に新たな道を開く学術的研究として高く評価されている。また、ITの台頭により従来のマスマーケティング戦略が厳しく評価される広告業界においても、同氏のベイズモデルは、多様化した消費者のニーズをとらえる広告効果測定法として実務家からの注目を集めている。さらに、「ベイズ統計とマーケティング」をテーマとして国際会議や統計関連学会におけるセッションを主催し、内外の研究者にベイズ統計学のもつ多彩な応用可能性を広く紹介し、後進の育成に尽力した。

同氏のこのようなマーケティング・サイエンス の研究及びベイズ統計学の普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわしいものである.

主要業績:

- [1] The Effect of Media Advertising on Brand Consideration and Choice. Marketing Science, 30, 74-91, 2011. Coauthored with M. Ban and G. Allenby.
- [2] Finding Market Structure by Sales Count Dynamics Multivariate Structural Time Series Models with Hierarchical Structure for Count Data -. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, 62, 92-107, 2010. Coauthored with M. Ban and T. Maki.

前日本統計学会長 竹村 彰通(東京大学)

- [3] Modeling Heterogeneous Effective Advertising Stock Using Single-source Data. Quantitative Marketing and Economics, 6, 415-438, 2008. Coauthored with M. Ban.
- [4] Estimating Heterogeneous Price Thresholds. Marketing Science, 25, 384-391, 2006. Coauthored with W. D. Dahana.

[2] 受賞者氏名:山本 拓 氏

略歴: 1968年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業, 1974年 ペンシルヴァニア大学経済学研究科博士 課程修了(経済学 Ph.D.), 1974年 ルーヴァン・カソリック大学付属 CORE 研究所研究員, 1976年 創価大学経済学部講師, 1978年 同助教授, 1982年 横浜国立大学経済学部助教授, 1987年 同教授, 1988年 筑波大学社会工学系教授, 1991年一橋大学経済学部教授, 2008年~現在 日本大学経済学部教授, 2009年 一橋大学名誉教授

授賞理由:経済時系列分析の理論研究において多くの優れた研究業績を挙げた.特に,予測量の精度に関する分析および共和分モデルの分析においては,国際的に先駆的な成果を挙げている.特筆すべきは,多期間予測に関する平均平方誤差は一般的には複雑な表現となるが,それをモデル本来の不確実性に起因する部分と,モデルの推定に起因する部分に分解できることを示し,この分野の先駆的論文としてしばしば引用されている.また,経済時系列分析の基礎理論を解説した著書は,時系列分析の名著として多くの研究者に影響を与えた.さらに,日本統計学会理事長・会長の重責も果たし,我が国の統計学界の発展に大きく貢献した.

山本氏のこのような統計学の発展及び普及に対 する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわしい ものである.

主要業績:

- [1] Asymptotic Mean Square Prediction Error for an Autoregressive Model with Estimated Coefficients. Journal of the Royal Statistical Society, Series C (Applied Statistics), 25, 123-127, 1976.
- [2] On the Prediction Efficiency of the Generalized Least Squares Model with an Estimated Variance Covariance Matrix. International Economic Review, 20, 693-705, 1979.
- [3] On the Treatment of Autocorrelated Errors in the Multiperiod Prediction of Dynamic Simultaneous

Equation Models. International Economic Review, 21, 735-748. 1980.

- [4] Properties of Predictors in Misspecified Autoregressive Time Series Models. Journal of the American Statistical Association, 80, 941-950, 1985. Coauthored with N. Kunitomo.
- [5]「経済の時系列分析 | (1988). 創文社.
- [6] Statistical Inference in Vector Autoregressions with Possibly Integrated Processes. Journal of Econometires, 66, 225-250, 1995. Coauthored with H.Y. Toda.

6. 第9回日本統計学会統計活動賞について

受賞団体・活動名:東京都総務局統計部. 『初等中等教育における統計リテラシー普及促進のためのデジタル教材の制作と普及活動~小学生のための統計学習「まなぼう統計」・中学生のための統計学習「まなぼう統計」~』

略歴: 平成24年3月に統計学習デジタルコンテンツを制作し、同年4月より東京都の全小・中学校(小学校1,363校、中学校838校) に配布および東京都のHPで全国に向けて一般公開.

利用促進のために、東京都教育庁指導部説明会・東京私立中学高等学校協会理事会・東京私立初等学校協会理事会・総務省主催「統計指導者講習会」・統計デロタグラフフェア・東京都統計グラフコンクール入賞作品展等において、資料の配布および解説等の普及活動を継続的に実施.

授賞理由:新学習指導要領において初等中等教育 全学年に渡って統計教育の拡充が図られており、 教育現場において、統計知識を身に付けることが

前日本統計学会長 竹村 彰通(東京大学)

できる補助教材が求められている。このデジタル教材はとくに、統計的な内容を生徒向けに解説しているだけではなく、統計の有用性や調査の重要性への理解の促進と統計を通じて身近な問題の解決を体験できるプロジェクトベースのシミュレーションコンテンツが含まれていることに特徴があり、児童生徒に統計を通じて生きる力を育む先端的なデジタル統計学習教材として、東京都だけではなくひろく全国の算数・数学科や社会科・総合学習の時間で活用され、学校現場への統計普及に効果を上げている。

このような統計教育普及に向けた貢献を高く評価した.

なお、この東京都の活動が他の道府県の模範となり、今後の統計教育の普及への活動がさらに活発となることを期待したい.

参考資料:まなぼう統計 Web ページ:

http://www.toukei.metro.tokyo.jp/manabou/ma-index.

7. 第9回日本統計学会統計教育賞について

[1] 受賞者氏名:川上 貴 氏

略歴: 2006年 千葉大学教育学部卒業, 2008年 千葉大学大学院教育学研究科修了, 2008年 私立聖徳学園小学校教諭, 2013年~現在 西九州大学子ども学部子ども学科専任講師

授賞理由:川上氏は,算数教育の立場から小学校における統計教育研究を勢力的に展開し,その成果を学会誌や学会などで多数発表している.学習指導要領改訂によって中等教育段階における統計教育の改革が進み始めた昨今,初等教育段階における統計教育の改善も一層の重要性が増しており,氏の小学校における実践研究は注目されている.

特に、統計的な問題解決には欠かせないデータの ばらつきや分布の概念習得のプロセスについて小 学生の実態を体系的に明らかにしており、我が国 の統計指導カリキュラムの改善に向けて氏の研究 は、数学教育関連学会、科学教育関連学会におい ても高く評価され、科学研究費補助金(奨励研 究) の採択, 日本科学教育学会年会発表賞を受賞 している。また、川上氏は、総務省主催による統 計指導者講習会の講師や統計数理研究所主催の理 数系教員指導力向上講座の講師, 日本数学教育学 会「資料の活用」検討ワーキンググループの小学 校部門委員等を務め、小学校における統計教育の 普及にも大いに貢献している. 日本統計学会統計 教育分科会主催の第9回「統計教育の方法論ワー クショップ | では、統計教育内容が新学習指導要 領で小学校低学年から高学年を通して毎学年、位 置付けられたことに対応して、"分布"という難 しい概念を小学校教育で系統的に深めていく授業 実践事例を報告し、その内容は今後の小学校にお ける統計教育の模範例になった.

主要業績:①川上貴(2010)「小学校低学年児童の分布の見方に関する実態―分布を推測する様相に焦点をあてて―」,数学教育学会誌,51(1/2),

前日本統計学会長 竹村 彰通(東京大学)

1-14.

- ②川上貴 (2012)「質的データに対する分布の見 方についての小学校3年生の実態に関する一考 察」,数学教育学会誌,52 (3/4),131-142.
- ③川上貴(2012)「データの表現を換えてみると新たな発見が!」、日本統計学会編『日本統計学会編『日本統計学会公式認定統計検定4級対応資料の活用』、70-71
- ④川上貴(2012.7)「平成24年度統計指導者講習会(総務省主催)」(於:総務省)
- ⑤川上貴(2013.2)「理数系教員指導力向上講座 (統計数理研究所主催)」(於:香川大学教育学部)

[2] 受賞者氏名:横澤 克彦 氏

略歴:1991年 上越教育大学大学院学校教育研究 科修士課程 修了,1991年 長野県北部高等学校教 論,1997年 長野県野沢北高等学校教論,2004年 長野県上田千曲高等学校教論,2010年 長野県屋 代高等学校教論,2012年~現在 長野県屋代高等 学校・附属中学校教論

授賞理由:横澤氏は科研費や SSH などでの研究費をすでに取得しており、報告書も多数作成している.これらの報告書に見られるようにこれまでも多様な授業展開を開発してきており、それらの結果報告は添付の資料のとおり多数にわたる.特に公開授業においては昨今統計教育で求められている「統計的に考えること」を意識したものもあり、また統計グラフコンクールや統計検定を活用した授業展開もすでに実施しており、その活動は今後も他の教員の参考になると考えられる.横澤氏は日本統計学会統計教育分科会主催の第9回「統計教育の方法論ワークショップ ビックデータ時代のデータサイエンス教育の系統性と横断性一統計教育の理論と事例に関する研究集会一」においても、「統計的探究活動」に焦点を当て、ど

のように授業展開を行えば、統計的問題解決のサイクル PPDAC を効果的に利用できるかなどを発表し、一定の評価を得た、その先験的な内容を授業に取り入れた授業実践事例の中での発表は全体的に授業研究の参考になり、今後の展開を含め、高い評価を得られた。

主要業績:

- ①横澤克彦(2009)「日々の授業で数学的活動を 実現する―教科書の問題を変えて―」, 日本数学 教育学会誌, 第91巻第7号, pp.30-35
- ②横澤克彦(2004)「Excel が支援する数学的モデル化の教材と授業での扱い―薬の投薬量と体内残量を探究する―」,明治図書,数学教育9月号,pp.54-59

- ③横澤克彦(2004)「Excel を利用して数学的モデル化を行う」, 長尾篤志 他編著, 『授業研究に学ぶ高校新数学科の在り方』, 明治図書, pp.126-141
- ④横澤克彦(2008)「数学的な見方・考え方の統合(その2)―「区別がつくか」に着目した組み分け問題全パターンの解決―」,数研出版,数学通信 No.62, pp.18-19
- ⑤横澤克彦(2011)「中高連携から探る「わかる授業」: データの分析「箱ひげ図」をわからせる! (データの散らばり(高校1年))」, 吉田明史編著,『「わかる」授業をつくる中学校数学科教材研究&授業デザイン—3つのストラテジーでうまくいく!』, 明治図書, pp.152-156

8. 第7回日本統計学会研究業績賞について

[1] 受賞者氏名:内田 雅之 氏

略歷:1994年 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了,1995年 統計数理研究所助手,1998年 博士 (理学) (大阪大学),2000年 九州大学大学院数理学研究院助教授,2007年 大阪大学大学院基礎工学研究科准教授,2009年~現在 同教授

授賞理由:内田雅之氏は高頻度データに基づく確率微分方程式の統計的漸近決定理論および統計的 モデリングにおいて有益な数理統計学的結果を数 多く与えている.最近の主な業績としては,近似 マルチンゲール推定関数を用いた微小拡散過程の ドリフトパラメータの漸近有効推定量の導出,工 ルゴード的拡散過程のモデル選択のための情報量 規準の構成及びその数学的正当化,誤特定された 拡散過程のボラテリティ推定量の退化した収束率の発見,拡散過程の適応的最尤型推定量のモーメント収束を含む漸近的性質の解明などが挙げられる.このように,内田氏の研究は確率微分方程式 モデルを用いて高頻度データ解析を行う上で直面 する不可避な現実的問題を対象としており,研究

前日本統計学会長 竹村 彰诵 (東京大学)

成果は統計理論の実用化へと導く極めて有用なものである。それは非線形時系列に対する漸近決定理論の新たな発展を与え、最先端の確率解析学を駆使したもので、現代数理統計学の深さと方向を示している。確率過程の統計学という新しい分野を切り開き、大規模データへの応用に貢献するその研究は、日本統計学会研究業績賞として顕彰するに相応しいものである。

主要業績:

- [1] Approximate martingale estimating functions for stochastic differential equations with small noises. Stochastic Processes and their Applications, 118, 1706-1721, 2008.
- [2] Contrast-based information criterion for ergodic diffusion processes from discrete observations. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, 62, 161-187, 2010.
- [3] Estimation for misspecified ergodic diffusion processes from discrete observations. European Series in Applied and Industrial Mathematics: Probability and Statistics, 15, 270-290, 2011. Coauthored with N.

Yoshida.

[4] Adaptive estimation of an ergodic diffusion process based on sampled data. Stochastic Processes and their Applications, 122, 2885-2924, 2012. Coauthored with N. Yoshida.

[2] 受賞者氏名: 狩野 裕 氏

略歷:1981年 大阪大学理学部数学科卒業,1983年 大阪大学大学院基礎工学研究科数理系専攻博士前期課程修了,1986年 工学博士.1994年 筑波大学助教授(数学系),1997年 大阪大学助教授(人間科学部),2004年~現在 大阪大学教授(基礎工学研究科)

授賞理由: 狩野裕氏は、潜在変数モデルの推測理論と欠測値データ解析の分野で顕著な研究業績を挙げている. 特筆すべき業績として、(i) 非正規性を積極的に利用し独立成分分析と構造方程式モデリング (SEM) の統合モデルを定義することによって統計的因果推論に新機軸を打ち出したこと、(ii) 多変量欠測値問題において統計的抵視の数理的基礎を固めた後、SEM における無視不可能な欠測値に対して、欠測メカニズムを指定する必要のない推定方法を開発したことがある. この推定方法は、既存のソフトウェアで容易に実行することができるという利点も持っており、理論と応用の両面において優れた業績である. この他にも、複雑なサンプリング方法に対応する SEM

のモデル選択法の提案や、高次元データ解析の理論的研究など統計理論の発展に幅広く貢献している。

以上により、狩野氏の業績は、日本統計学会研 究業績賞として顕彰するに相応しいものである.

主要業績:

- [1] Use of non-normality in structural equation modeling: Application to direction of causation. Journal of Statistical Planning and Inference, 138 (11), 3483-3491, 2008, coauthored by S. Shimizu.
- [2] Analysis of NMAR missing data without specifying missing-data mechanisms in a linear latent variate model. Journal of Multivariate Analysis, 102 (Oct), 1241-1255, 2011, coauthored by K. Takai.
- [3] A criterion-based model comparison statistic for structural equation models with heterogeneous data. Journal of Multivariate Analysis, 12 (Nov), 92-107, 2012, coauthored by Y.-X. Li, J.-H. Panc and X.-Y. Song.
- [4] Asymptotic inference with missing data. To appear in Communications in Statistics Theory and Methods, coauthored by K. Takai.
- [5] Asymptotic distributions of some test criteria for the mean vector with fewer observations than the dimension. To appear in Journal of Multivariate Analysis, coauthored by S. Katayama and M.S. Srivastava

9. 第27回日本統計学会小川研究奨励賞について

受賞者氏名:早川 和彦 氏(広島大学大学院社会科学研究科)

受賞論文:"GMM Estimation of a Short Dynamic Panel Data Model with Interactive Fixed Effects," Journal of the Japan Statistical Society, Vol.42, No.2, pp.109-123, 2012.

受賞論文の評価:標準的なパネルデータモデルでは、個人の異質性を表す個別効果と、時間特有の

前日本統計学会長 竹村 彰通(東京大学)

効果を表す時間効果がモデルに加法的に含まれているが、近年、個別効果と時間効果が乗法的にモデルに含まれる相互作用的固定効果(interactive fixed effect)モデルの研究が盛んに行われている。今回受賞対象となった早川氏の論文はこの文献に貢献しようとするものである。先行研究では相互作用的固定効果を擬似階差(quasi-difference)をとることで、相互作用的固定効果と説明変数間の

相関の問題を回避しているが、受賞論文では射影 法を用いて相互作用的固定効果と説明変数間の相 関を取り除く方法を提案している。相互作用的固 定効果モデルはパネルデータモデル研究の最先端 のトピックの一つであるが、その分野に貢献した 受賞論文は日本統計学会賞小川研究奨励賞にふさ わしい論文である。

10. 2013年度統計関連学会連合大会について (第三報)

2013年度統計関連学会連合大会 実行委員会委員長 大屋幸輔(大阪大学) プログラム委員会委員長 栗原考次(岡山大学) 運営委員会委員長 佐藤美佳(筑波大学)

2013年度統計関連学会連合大会の第一報,第二報に続き,「第三報」をお届けします。本報が本大会に関する最後のご案内です。本報は連合大会について簡潔にまとめを行い,皆様の便宜をはかりたいと思います。今後,詳細プログラムや変更事項は、連合大会のウェブページ

http://www.jfssa.jp/taikai/2013/

に掲載いたしますので、どうぞご参照ください.

すでに5月8日(水)から6月10日(月)まで 講演申し込みを受け付けいたしました。おかげさ まで、企画セッション講演72件(企画セッション 17)、コンペティション講演23件、一般講演224件 の申し込みを頂きました。これに加えて、ソフト ウェアセッション5講演があり、総講演数324件 となりました。誠にありがとうございました。

1. 日程など

本大会に関する今後の日程は次の通りです。 大会開催日程:9月8日(日)から11日(水)までの4日間

9月8日(日): チュートリアルセッションと市 民講演会

9月9日(月)~11日(水):本大会

場所:大阪大学豊中キャンパス

共催:応用統計学会,日本計算機統計学会,日本 計量生物学会,日本行動計量学会,日本統計学 会,日本分類学会

懇親会: 9月10日 (火) 18:10~

(豊中キャンパス内のカフェテリア「らふぉれ」) **事前参加申込**:

7月18日(木)9:00~8月20日(火)17:00 ※原稿提出は7月9日(火)17:00に締め切り ました.

2. 会場

本大会は、初日の9月8日(日)に、チュートリアルセッションと市民講演会を、大阪大学豊中キャンパスの文法経研究講義棟で開催します。2日目から4日目の9月9日(月)から11日(水)に、各種セッション講演を、キャンパスの全学教育推進機構 管理・講義棟A、B棟、および大講義室で行います。

大阪大学全学教育推進機構 〒560-0043大阪府豊 中市待兼山町1-16 電話:06-6850-6111 (代表)

- (1) 大阪大学豊中キャンパスへのアクセスは、連合大会ウェブページの「会場」欄をご参照下さい、阪急宝塚線石橋駅から徒歩約15分、大阪モノレール柴原駅から徒歩約15分です。
- (2)「文法経研究講義棟」へのアクセスも、ウェ ブページの「会場」欄をご参照下さい.
- (3) 2日目以降は、全学教育推進機構管理・講義 棟A、B棟の教室、および大講義室が会場とな ります。
- (4) 保育室は、大阪大学豊中キャンパス内に設け

る予定です.

- (5) 昼食は、総合図書館の下の「図書館下食堂」、 学生交流棟の「宙 (sora)」、豊中福利会館 3 階 の食堂、その他、カフェテリア「らふぉれ」な どでおとりいただけます。
- (6) 懇親会は、9月10日(火)の夕方に大阪大学 豊中キャンパス内にあるカフェテリア「らふぉ れ」で行います。
- (7) 無線 LAN サービスの提供はありません.

3. 参加申し込み

大会に先立って、事前参加申し込みと懇親会申し込みがウェブページで始まっております。連合大会ウェブページの「申し込み」欄よりお手続き下さい。申し込み期間は2013年7月18日(木)午前9時より8月20日(火)17時までです。カード決済と銀行振り込みがご利用いただけます。事前申し込みは、当日受付より大幅な割引がございますので、ぜひご利用下さい。

大会参加費(講演報告集代を含む)、チュートリアルセッション参加費(資料代を含む)とも会員(共催6学会の学会員)・学生(学会員、非会員を問わず)・学生以外の非会員により参加費が異なります。また、懇親会参加費は、一般(学会員・非会員を問わず)・学生(学会員・非会員を問わず)により参加費が異なります。詳しくはウェブページの「大会詳細」をご覧下さい。市民講演会は無料です。

なお、非会員の招待者(企画セッション講演者、 討論者等)の方を除き、すべての講演者(一般・ 企画セッション・コンペティション講演を問わ ず)の方も参加申し込みのお手続きが必要です. お忘れなきよう、よろしくお願いいたします.

4. 保育室

今年度は、大阪大学経済学部の60周年記念事業 基金からの助成により保育室を開設します。

設置期間: 9月9日 (月) ~11日 (水) (8日は 設置しません) 設置時間:プログラム開始30分前から終了30分後 まで

場所:原則として,大阪大学豊中キャンパス内 対象:原則0歳児から6歳児(小学校入学前)ま

保育者:保育士

締め切り:8月20日(火)申込先:福重元嗣(実行委員)mfuku_at_econ.osaka-u.ac.jp(at を @ にご変更ください)

ご利用を希望される方は、できるだけ早くメールにて上記までご連絡下さい。詳細についてお知らせいたします。また、お問い合わせの際には、暫定の利用日時とお子様の年齢をお知らせいただけると助かります。詳細な利用規定や正式の申込書・同意書については、後日お送りいたします。

5. 大会プログラム

プログラムおよび大会案内はウェブページで公開するとともに(8月上旬までに公開予定)、各学会にもお知らせいたします。ウェブページにはHTML版およびPDF版を用意いたします。プログラムは講演報告集にも掲載します。なお、各学会を通じての、印刷物冊子配布はございませんのでご注意下さい。

なお、講演者および共同発表者の所属は原則として講演申し込み時に入力頂いたものです.

6. チュートリアルセッション

チュートリアルセッションは2つのテーマを用意いたしました。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日 時:2013年9月8日(日) 13:00~16:00

場 所:大阪大学豊中キャンパス 文法経研究講 義棟4階 文41番講義室,法42番講義室

受付開始: 12:30

テーマA:統計的グラフィカルモデルの展開

講演者:原尚幸先生(新潟大学)

場 所:文法経研究講義棟4階文41番講義室

テーマB:ビッグデータと統計解析

講演者:水田正弘先生(北海道大学),南弘

征 先生(北海道大学)

場 所:文法経研究講義棟4階法42番講義室

2つの講演は同じ時間帯に開催されますので, どちらか一方のテーマをお選びください. なお, 途中でもう一方のテーマへ移動されても追加料金 はかかりません.

事前参加受付は、2013年度統計関連学会連合大会のウェブページの「申し込み」欄から手続きができます(8月20日(火)17時まで)。当日参加も受け付けますが、あらかじめ参加費を納めていただく場合は、大幅な割引が受けられます。当日受付の場合、参加費(資料代含む)は、会員(共催、協賛の6学会の会員)4,000円、学生(会員・非会員を問わず)4,000円です。学生以外の非会員は8,000円です。

7. 市民講演会

市民講演会は、以下のテーマで2名の先生方に ご講演をお願いいたしました。多くの方々のご参 加をお待ちしております。参加費は無料です。

日 時:2013年9月8日(日) 16:30~18:00

場 所:大阪大学豊中キャンパス

文法経研究講義棟4階文41番講義室

受付開始:15:30

テーマ1:保健統計データの見方-健康で長寿な

社会をめざす統計-

講演者:村上義孝先生(滋賀医科大学)

時 間:16:30~17:15

テーマ2:統計教育大学間連携ネットワークが目

指すビッグデータ時代の人材育成

講 演 者:美添 泰人 先生(青山学院大学)

時 間:17:15~18:00

8. 企画セッション等一覧

ソフトウェア・デモセッションおよび17件の企画セッションを設けます。各セッションが配置されている時間帯、会場、テーマとオーガナイザー氏名(所属)は以下の通りです。詳細プログラム、テーマのねらいや講演者・講演タイトル等につきましては連合大会のウェブページをご覧下さい。

企画セッション名とオーガナイザー

9月9日(月)10:00-12:00

A会場 ビッグデータサイエンスとエンジニアリング:大屋幸輔(大阪大学)・水田正弘(北海道大学)

H会場 日本分類学会シンポジウム:クラスタリング研究の新展開:足立 浩平 (大阪大学)

9月9日(月)13:00-15:00

A会場 確率微分方程式モデルの金融・保険数理 統計:内田 雅之(大阪大学)

D会場 日本計量生物学会シンポジウム:医学分野における統計教育のあり方:松山裕(東京大学)

H会場 日本統計学会 会長講演・各賞受賞者記 念講演:岩崎学(成蹊大学) [17:30まで]

9月9日(月)15:30-17:30

A 会場 スポーツ統計と統計科学の融合: 竹内 光悦(実践女子大学)・酒折 文武(中央大学)

D会場 日本計量生物学会 奨励賞受賞者講演: 手良向 聡(金沢大学)

9月10日(火)10:00-12:00

A会場 日本計算機統計学会 企画セッション: 計算機統計学からのゲノムデータ解析: 冨田 誠 (東京医科歯科大学)

H会場 統計教育における高大連携: 藤井 良宜 (宮崎大学)・牧下 英世 (芝浦工業大学)

9月10日(火)13:00-15:00

A 会場 確率過程と計算統計:吉田 朋広 (東京 大学)

H会場 統計関連学科・統計科学専攻設置に関する国内外の動向:山口 和範(統計教育大学間連携ネットワーク・立教大学)

9月10日(火)15:30-17:30

A 会場 応用統計学会 学会賞受賞者講演:大西 俊郎 (九州大学)・黒木学 (統計数理研究所)

B会場 福島第一原発事故被害地域における疫学 データの調査・解析・オープン化: 古谷 知之 (慶應義塾大学)

C会場 ソフトウェアセッション (デモセッション): 竹田 裕一 (神奈川工科大学)

H会場 大学における統計教育の課題と標準カリキュラム策定に向けて:中西 寛子(統計教育大学間連携ネットワークカリキュラム策定委員会委員長)

9月11日 (水) 10:00-12:00

G会場 時間・空間・時空間における事象系列研 究の新展開: 庄 建倉 (統計数理研究所)

なお、第二報でお知らせした後、プログラム委 員会において、企画セッションに関する以下のこ とが承認されました.

企画セッション「ビッグデータサイエンスとエンジニアリング」オーガナイザー:大屋 幸輔(大阪大学)・水田 正弘(北海道大学)を新たに追加すること

オーガナイザーの申出により企画セッション 「ベイズ的アプローチが役に立った実践例」を開催しないこと

文部科学省科学技術試験研究委託事業「数学・ 数理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラム(略称: 数学協働プログラム)」による数学協働プログラム・ワークショップ「統計科学の最先端と産業 界・諸科学への展開 | の開催について

共催:大阪大学金融・保険教育研究センター・文 部科学省(統計数理研究所)・統計関連学会連 合

9月9日(月)10:00-17:30,10日(火) 10:00-12:00

企画セッションのうち、「ビッグデータサイエンスとエンジニアリング」、「確率微分方程式モデルの金融・保険数理統計」、「スポーツ統計と統計科学の融合」、「計算機統計学からのゲノムデータ解析」については数学協働プログラム・ワークショップ「統計科学の最先端と産業界・諸科学への展開」として実施し、参加費無料といたします。

趣旨:我々が現実社会で直面する現象は高次元で 複雑に関連しあっており、それらを科学的に解明 することは、数学・数理科学に携わる研究者のみ ならず、医学、生物、経済、心理、といった諸科 学. さらにスポーツや広告. 情報産業などの産業 界にとっても大きなテーマである. 革新的に進化 した情報技術が提供するビッグデータと呼ばれる 膨大なデータの蓄積は、それらを科学的に解析す る技術の確立への要望を更に強めている. この数 学協働プログラム・ワークショップ「統計科学の 最先端と産業界・諸科学への展開 | においては、 特にゲノムデータ解析, 金融・保険, スポーツ, そしてビッグデータ自体をとりあげる4つのセッ ションにより、 最先端の研究成果が報告される予 定である. 産業界, 諸科学の方面からの課題提議 や双方向の議論を通し、基礎研究だけでなく実務 的な応用をも念頭に置いた数学・数理科学の関連 分野への貢献の方向と方策を見出すことを. 各セ ッションの共通目的としたワークショップとなっ ている.

9. コンペティション

今年度も若手会員の質の高い研究・発表の奨励 を目的としてコンペティションを実施します. コ ンペティション講演セッションは, 9月9日 (月) \sim 10日 (火) に B 会場で行います. 発表時間は質疑を含めて20分とさせていただきます. なお,表彰式は10日 (火) 17:40から B 会場にて行います(第二報の案内から変更されておりますの

でご注意ください). 詳細は連合大会のウェブページ [コンペセッションの概要について] をご覧ください.

11. 統計検定(2012年11月18日実施)合格者の声(続)

国友 直人(日本統計学会会長)

前号に引き続き2012年統計検定の合格者よりお寄せいただいた声を掲載します.

1級(理工学) 合格

松田孟留さん

(東京大学大学院情報理工学系研究科修士1年) 統計検定は指導教員の駒木文保先生の紹介で知 りました. 統計の基本的な手法について勉強する 良い機会だと思い受験することにしました、試験 に向けた準備として、竹村先生の「現代数理統計 学 | を使って勉強しました. また. HP の過去問 も参考にしました、およそ理解しているつもりで も実際の計算でつまづくことが多く、慣れが必要 だと感じました. 本番では知らない分野から出題 されたり計算ミスをしてしまいましたが、合格で きてよかったです、選択問題では、自分の解いた 理工学の問題以外に人文科学、社会科学、医薬生 物学とさまざまな分野から統計に関わる問題が出 題されていて、統計学の応用範囲の広さを感じま した。これらの分野についてもいずれ勉強してみ たいと思いました.

今回の合格を励みにして、大学院での研究に取り組んでいきたいと思います.これから統計検定がますます普及して、統計学の知名度が上がることを願っています.

2級・3級 合格

中西渉さん(名古屋高等学校 教諭)

新しい学習指導要領の算数・数学では統計分野 が強化され、高校では「データの分析」という単 元ができるということを知り、それに関する勉強 会で統計検定のことを知りました. 生徒に新しいことを教えるためには, 教師として勉強しないわけにはいかないと考え. 受験することにしました.

Web 公開された問題例を見て、3級は受かる だろうけど2級はそのための勉強をしておいた方 がよさそうだと思われたので、2級対応テキスト 「統計学基礎」を用意しました。内容はかなり難 しく、理解できない部分を残したまま受験するこ とになりました. その分. 試験問題には余裕を持 って取り組むことができました。脳みそ使ったな あという疲労は残りましたが、合格をいただいて、 生徒に教えるための自信は持てたように思います. とはいえ実務でデータを扱う上ではまだまだ力不 足であることも実感できたので、勉強は続けます. 1級を目指すかどうかはそれから考えます. その 前に、勤務校の生徒や同僚に受験を薦めていきた いと考えています. これから社会に出る生徒たち には統計のスキルが必須となることを伝えたいの です. 若いうちにやっとけ、と.

2級・統計調査士 合格

栗村信一さん (山形市役所)

ネットで、統計の資格を検索するうち統計検定 を知りました。市役所で統計の担当をしています が、統計の有資格者がいるべきと考え、自分が最 初の事例になればと思い受験しました。

勉強はまず例題や過去問を解き、要求される理解度・解くスピードを確認。統計調査士の勉強は日々の調査業務の復習と統計局サイトのチェック、2級は大学時代のテキストの復習など、2級試験は特に、限られた時間でけっこうな問題数なので、

スピード感を持って必死にこなしました.

今年は1級・専門統計調査士も受験できるよう 準備していくつもりです。国際資格も難しそうな ので、数年計画で少しずつ取り組むつもりです。

市役所は基幹統計調査の拠点です。一方で、統計活用面では十分に力を割けていない現状ですが、市自らが統計を使って考えることが自治の基礎となりますので、改善していきたいと思います。自治体のより多くの方々が統計を理解・活用し、地方自治の基礎を築くことを願ってやみません。

2級・統計調査士 合格

蓮井久美子さん((株) 三菱総合研究所)

2012年統計検定の受験手続締め切りのちょうどその日に、WEBサイトで調べものをしていて、偶然、統計検定があることを知りました.数年前から統計調査業務のお手伝いをさせていただき、業務を通じて基本的な知識は身に着けてきましたが、学生時代も含めて体系的に統計学を勉強したことはありません.ですから、断片的な知識を整理し、必要な事項を習得できる良い機会と思い、早速、統計検定2級と統計調査士の試験に申し込みをしました.

申し込みから受験日までの1か月の間,統計検定2級については日本統計学会公式認定のテキスト等2~3冊を購入して,全体をさらいました.また,統計調査士については過去問を解いて,主だった統計調査に関する知識が必要なことが分かったので,市販の公的統計に関するガイドブック,e-statの各調査の概要や調査票などを確認しました.

結果,統計検定2級については合格,統計調査 士についてはS評価をいただくことができました.

今回,統計検定の勉強をする中で,これまでの 業務の内容が腑に落ちるように感じる場面が多々 ありました.統計検定の勉強を通して習得した知 識は,今後,調査の設計,実査,集計などの各場 面できっと役立てられると思います.しかし,合 格はできたものの統計検定2級の自己採点結果に ついては満足のいくものではなく,実力不足を痛 感しています.今は,国際資格と専門統計調査士 の受験を目標に、少しずつ勉強を進めています. 今後も統計調査の実務や統計の利活用などのスキ ルアップに努めてまいりたいと思います。

2級 合格

増田龍陪さん (信州大学2年)

大学のゼミで統計検定を知りました.統計の勉強をしているゼミなので、ゼミのメンバー全員で受験しました. 受験にあたっては、ゼミの先生が紹介してくれた参考書の問題を一通り解き、統計の基礎を固めました. また、昨年度の本試験を模擬試験として利用しました. ただ、今回が二回目の実施ということもあり、どの程度勉強をすればいいかがわからなく不安もありました.

実際に統計検定を受験してみての手応えとして、計算問題では難しい問題はなく基本的な知識さえあれば回答できるものでした。反面、統計の性質や情報の読み取りについての問題が難しく、自身の勉強不足が否めない結果でした。全体的な難易度としては、大学の統計学の講義の内容を理解できていれば合格は出来るものだと感じました。

要望としては、次は1級を受験する予定なのですが、それに向けての教材が豊富になれば、それが指針となり勉強の効率も上がるのでぜひお願いしたいです。また、この検定の知名度を上げてほしいです。統計検定に合格することの意義が大きくなれば、受験者数も増えていくと思います。

2級 合格

西尾優子さん (独立行政法人統計センター) (きっかけ)

三十代半ばで遅めの転職をしたので、実務は現場で学びつつ、理論は自分で身につける必要性を感じていました。そんな時に職場の広報で統計検定の存在を知りました。統計学を手ほどきしてくださった方々、新しい職場で応援していただいた方々、受験を快く後押しして下さった上司に感謝しています。有難うございました。

(学習法)

公式参考書を中心に学習しました. 難しいと感

じたところは、インターネットで初心者用の統計学のサイトを探し、スマートフォンを使って学習しました。後は、カフェで「コーヒー」をいただく時に「統計学の本を開くならスイーツもセット」していたので、職場受験のプレッシャーはありましたが、学習自体は明るい気持ちで継続できました(1回24分×6単元ごとに、繰り返しました)。(効果)

検定用の学習をすることで、頭の中でばらばらだった知識が、一定レベルでまとまったので良かったと思います。輝かしい賞まで戴けたのは自分でも驚きましたが、賞のおかげで、統計検定の存在を友人知人に知っていただけたことも効果の一つです。

(今後)

仕事柄, 統計制度について理解を深めたいので, 統計調査士の試験に興味があります.

努力することが才能, 諦めたら試合終了, と思ってチャレンジしていきたいと思います.

3級 合格

小林永知さん (高校生)

統計検定があることは担任の先生から教えてもらいました. 高校では今年から新しく「データの分析」が始まりましたが、私の高校では夏休み中に、統計グラフコンクールの作品を作りました. そこで培ったデータの見方が今回の統計検定で役立ったと思います.

統計グラフコンクールでのテーマは「薬剤師国家試験合格のために」でした。4年生国公私立大学・大学院修士・大学院博士の出身者が、薬剤師や薬学研究者、製薬会社など、それぞれどんな進路に進んでいるのかを調べました。薬学部への進学を目指しているので興味本位で調べましたが、いろんなデータがいっぱい出てきすぎて、どのデータから何が言えるのか、分からなくなってしまいました。

当初,国公立は研究者で私立は薬剤師が多いと思ってましたが、よく調べてみるとその比率は様々で、一概に何かをすぐ言えるものではないこ

とが分かりました. 今回の経験でデータを何となく見るのではなく,何かを主張するためにしっかり観るという姿勢が少しは身についたような気がします.

お世話になりました. ありがとうございました.

3級 合格

小倉郁史さん (公務員)

学生時代の専門分野は化学でしたが、卒業研究では大量のデータを統計的手法により解析するようなことをしていました。また、現在の仕事では、業務を通して蓄積されたデータを加工・分析して公表するようなことをしています。そんなところから、私にとっての統計学は、常に手が届くところにあったのですが、どれだけ理解しているかと自問すれば、深く入り込んだことのない領域だというのが正直なところでした。

そんな統計学の道標となる本を探そうと書店を 見て回っていたところ、統計検定の広告を目にし、 何か形に残るところまでは勉強したいという思い から受験することにしました。ただ、統計検定を 知ったその日が願書締切の数日前、合格はおろか 出願すら間に合うのかといった状態でしたので、 出願手続きも勉強期間も後手に回ってしまいました。勉強といっても仕事をしながら大慌てでした ので、参考書と問題集をめくるのが精一杯といった勉強でしたが、学生時代に戻ったような気分で、 不思議と充実した時期でもありました。

結果は3級合格, さらに優秀成績賞を頂くことができてほっと一息ついたところですが、日が経つにつれ、「もっと上へ」という気持ちが出始めているところです。

今後は2級や国際資格も視野に入れていこうと 思いますが、検定合格だけにとらわれるのではな く、統計学の面白さを自分なりに見つけていくこ とを目標にして、色々な知見を身につけていきた いと思います。

統計調査士 合格

丹野一成さん (株式会社タイム・エージェント)

同業他社の方から統計検定試験が平成23年から 実施されたとの情報を得て、次の年に受験するこ とを決めました。さらに、官公庁等の入札におい て、会社としての調査業務受託条件として、「専 門統計調査士の有資格者がいること」が盛り込ま れるケースが多く見受けられるようになり、統計 調査士・専門統計調査士試験に同時に合格するこ とが使命となりました。

受験にあたっての事前の対策は、受験1か月前から過去の試験問題の出題傾向を理解し、解説を熟読しました。併せて「統計調査員のしおり」、「統計実務の基礎知識」を中心に、暇をみては目を通していました。特に統計法・統計学に関しては、日常の業務では接することが少ないこともあ

り. 最も時間を割きました.

受験当日の場面では、一定時間以上集中して問題に挑戦することは、遠い昔の話になってしまっていたので、集中して設問を読み、理解することに大変苦労し、時間配分に注意を払いました。また、専門統計調査士試験も同日に受けたこともあり、とても疲れました。

今後、私自身は別試験を受けることはないと思いますが、統計調査業界に関係する多くの方々とりわけ若い方々がこの資格を取得することにより、統計調査業界が社会的に一層認知され、調査を実施する場面において、調査対象者(社)の方々に今まで以上にご協力いただける調査環境が構築できればとの思いで一杯です。

12. 定時社員総会報告

日時 2013年6月15日 (土) 13:30-14:40 場所 早稲田大学7号館1階ファカルティラウン ジ奥ミーティングルーム

出席者: 竹村彰通会長, 岩崎学, 大森裕浩, 大屋幸輔, 鎌倉稔成, 川崎茂, 国友直人, 桑原廣美, 駒木文保, 西郷浩, 佐藤朋彦, 瀬尾隆, 竹内光悦, 竹田裕一, 椿広計, 樋口知之, 舟岡史雄, 槙田直木, 美添泰人, 吉田朋広, 渡部敏明, 渡辺美智子(以上代議員21名, 委任状5通, 議決権行使書12通)(オブザーバー:上野玄太, 大野忠士, 矢島美寛)

冒頭, 竹村会長より, 定足数確認後, 開会宣言がなされ, オブザーバー3名の出席が承認された. また, 竹村会長より, 議事録署名人として樋口知之, 椿広計両代議員が提案され, 承認された.

審議事項

第1議案 2012年度事業報告及び決算の承認に関する件-定款第12条(5)

岩崎理事長より、資料に基づき、2012年度事業 報告及び決算について報告があり、また、矢島監 事,美添監事,渡部監事より,資料にもとづき, 監査について報告があり,審議の結果,2012年度 事業報告及び決算を承認した.

第2議案 理事及び監事の選任に関する件-定款 第21条

竹村会長より、理事(竹村彰通,岩崎学,上野玄太,西郷浩,大野忠士,小林正人,青嶋誠,渡辺美智子,狩野裕)及び監事(矢島美寛,美添泰人,渡部敏明)が任期満了により退任するので、その改選が必要であるとともに、辞任の申し出のあった理事(鈴川晶夫,勝浦正樹)の後任者の選任が必要であるため、被選理事長が作成した新理事候補者一覧および会長が指名した新監事候補者が示され、審議の結果、以下のように後任の理事及び監事を選任することとした(2013年6月15日付).

理事 国友直人,鎌倉稔成,西郷浩,三分一史和, 大野忠士,西山陽一,谷崎久志,竹内惠行, 勝浦正樹,渡辺美智子,宿久洋,中野純司 監事 竹村彰通,矢島美寛

-般社団法人 日本統計学会

2012 年度事業報告

 $(2012.4.1 \sim 2013.3.31)$

). 学会の動向

日本統計学会が一般社団法人として2年目を迎え,2年周期の学会事業を法人として初めて一通り終えた年度であった。竹村彰通会長,岩崎学理事長を含む11名の理事と3名の監事,および各種委員会における委員の運営により特段の問題もなく1年を終えることができた。新たな事業として,大学間連携共同教育推進事業にステークホルダーの一機関として参加を開始した。このことも含め,統計学の普及に大きく貢献した年度であった。

2013年3月19日現在の会員の数は1,461である(名誉会員18,正会員1,365,学生会員56,費助会員16,団体会員6).

1. 出版編纂事業

1. 欧文誌の発行

欧文誌2号[Vol.42 No.1 (6月), No.2(12月)]を発行した. 内訳は原著論文 11編,全 219ページであった.

アーカイブのオンライン公開を行った.

2. 和文誌の発行

和文誌 2 号[第 42 巻シリーズ] 第 1 号(9 月)、第 2 号(3 月)] を発行した。第 1 号では、「東北大震災と関連現象の統計的評価」の特集を組んだ。内訳は原著論文 5編、特集 5編、受賞者特別寄稿論文 4編、書評 5編、その他を合

アーカイブのオンライン公開を行った.

わせ金 309 ページにあった.

. 会報の発行

No. 151 (4月), No. 152 (7月), No. 153 (10月), No. 154 (1月) を発行した.

11. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第80回大会の開催

2012年9月9日(日)~9月12日(水),北海道大学・高等教育推進機構において,統計関連学会連合大会の一環として開催した.企画セッションとして,日本統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式,会員集会),統計学初級中級講座「マルチレベル解析と繰り返し測定データの解析」を企画した.

2. 春季集会の開催

2013年3月3日(日)に第7回春季集会を学習院大学において開催した。参加者は169名であった。

3. 研究部会の活動

2013 年度より活動を開始する部会を募集した (2012 年 12 月 8 日~2013 年 2 月 7 日)が, 応募はなかった.

第 9 回 統計教育の方法論ワークショップの開催

4

2013年3月1日(金),2日(土)に第9回統計教育の方法論ワークショップを学習院大学において開催した.

5. 研究分科会の活動

現在,以下の分科会が活動中である.

「スポーツ統計分科会」(田村義保主査: 2009 年 6 月発足, 2013 年 5 月終了予定) 「金融の計量リスク管理分科会」(三浦良造主査: 2009 年 9 月発足, 2013 年 8 月終 了予定) 「ベイズ分析研究分科会」(繁桝算男主査:2010 年 11 月発足,2014 年 10 月終了予 定)

統計教育分科会」(竹内光悦主査:2010年 12 月発足,2014年 11 月終了予定) 計量経済・計量ファイナンス分科会」(永井圭二主査:2010 年 12 月発足,207年 年 11 月終了予定)

統計検定の実施

9

2012年11月18日(日)に日本統計学会が主体となり,(財)統計研究会および(財)統計情報研究開発センターとの共催事業として第2回目の統計検定を実施した.1級,2級,3級,4級,統計調査土,専門統計調査士の受験申込者数の合計は2,692名(2011年の第1回実施時は1,210名)であった。また,2012年5月26日(土),27日(日)には,RSS/JSS試験を統計検定の一環として行った.

7. 第2回 IMS-APRM2012 会議の開催

2012年7月2日~7月4日,つくば国際会議場において、第2回 IMS-APRM 会議を開催した (Institute of Mathematical Statistics (IMS), 統計数理研究所 (ISM), しゃまw.

8. 大学間連携共同教育推進事業へのステークホルダーの一機関としての参加の開始 大学間連携共同教育推進事業(文部科学省)に,「データに基づく課題解決型人材 育成に資する統計教育貿保証」事業を連携申請(8大学,6学会,8団体、代表校: 青山学院大学)し,選定された.事業期間は2012年9月27日より2016年度末ま でである。

II. 会員関係事業

附属明細書に記述すべき事項はない.

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため,以下の賞を授与した.

第17回日本統計学会賞:田中豊,渡辺美智子

第8回日本統計学会統計活動賞:公益財団法人矢野恒太記念会

第8回日本統計学会統計教育賞:藤原大樹,岐阜県総合企画部統計課

第6回日本統計学会研究業績賞:大森裕浩・渡部敏明(共同受賞),青嶋誠・矢田

和善 (共同受賞)

第5回日本統計学会出版賞:日本統計協会(『新版日本長期統計総覧』第1巻~第5巻),藤越康祝・Vladimir V. Ulyanov・清水良一(Multivariate Statistics:

High-Dimensional and Large-Sample Approximations)第26回日本統計学会小川研究獎励賞:清 智也

2. 各種委員会の活動

社員総会 (2012年6月, 2013年3月) を開催した.

被選代議員会 (2013年3月)を開催した.

理事会 (2012年5月,7月,12月,2013年2月) を開催した.

役員協議会(2012年9月)を開催した.

その他の各種委員会を適宜,開催した.

. 広報活動の充実

メーリングリストの使用やホームページの充実により,各種情報発信を促進した。

ウェブ上の会員名簿閲覧システムを開発,公開した(2012年4月).

IV. その他

1. 2013-2014年度代議員(被選代議員),会長(会長候補者,被選会長),理事長(被選理事長)選挙を実施した(2013年3月末日時点では,被選会長選挙は投票期間中).

一般社団法人 日本統計学会 2012年度 決算書(連結ペース)

正味財産増減計算書 2012年4月1日~2013年3月31日 (単位 円) 備考 12年度予算 12年度決算 I. 一般正味財産増減の部 1. 経常増減の部 (1) 経常収益 14,235,000 14,577,752 会費収入 10,900,000 11,163,000 名誉会員·正会員 10,000,000 10,032,000 学生会員 211,000 200.000 遡及請求分 700,000 920,000 替助法人費 890,000 970.000 240 000 240 000 団体会員費 科学研究費補助金 800 000 500 000 雑収入 1 405 000 1 704 752 会誌購請料 700,000 601.500 利子収入 5.000 4 758 広告収入 700,000 720.000 その他 0 378.494 (2) 経常費用 14,422,000 13,266,535 印刷費 7,650,000 6,889,246 会誌(42巻1,2,42-J1,J2号) 6,300,000 5,294,834 会報(151-154号) 750,000 801,600 名簿印刷費 0 328,590 その他印刷 600,000 464,222 会誌・会報の封筒作成、大会冊子等 大会開催費 900,000 975,699 春季集会開催費 600,000 454,778 各當運堂経費 300 000 416.861 出版賞書 0 39 060 その他大会開催費 0 65,000 連合大会賛助会員招待分 研究部会費 300.000 0 100 000 研究分科会費 100 000 学会運営会合費 230.000 215.815 評議員会(社員総会) 70.000 65.790 特別委員会 20,000 68,270 統計教育委員会 20,000 0 会誌編集委員会 20,000 0 100,000 81,755 事務費 340,000 189,826 -般事務人件費 20,000 校正編集事務人件費 170,000 74,000 発送事務人件費 80,000 84,000 事務用品 40 000 20 146 11,680 事務員の交通費・収入印紙 その他 30.000 学会事務業務委託費 2.340.000 2.592.000 * 通信 郵送費 1.550.000 1.572.398 * 会誌送料 700.000 535 025 会報送料 450.000 399,285 その他通信・郵送料 400.000 638.088 役員旅費補助 200,000 43,120 各種分担金 150,000 145,856 日本経済学会連合 35,000 35,000 国際統計協会ISI 25,000 20,856 50,000 50,000 横幹連合 統計関連学会連合 40,000 40,000 ネットワーク維持費 12,075 *ドメイン使用料, 学会サーバー委託 12,000 国際交流促進費 460,500 * 350,000 名簿作成積立金 300,000 0 租税公課 70,000 * 0 3,000,000 予備費 0 当期経常增減額 187 000 1 311 217 (うち特定資産以外) (163,000) (1,861,059) (うち特定資産) (350.000) (549.842) 2. 経常外増減の部 (1)経常外収益 63,144,455 ISI基金 · ICP基金讓受益 63,144,455 当期経常外增減額 63,144,455 20,213,191 一般正味財産期首残高 20,213,191 一般正味財産期末残高 84,668,863 Ⅱ指定正味財産増減の部 当期指定正味財產增減額 指定正味財産期首残高 0 0 0 0 指定正味財産期末残高 0 Ⅲ 正味財産期末残高 20 026 191 84 668 863

⁽注)費用項目中予算を超過する項目(*印)があるが全て予備費の範囲内のもの

2012年度決算書

(2013年3月31日現在)

495.444.1.1		-U.L100	77 =	(20.0 0)	101 H 20 H 7
_貸借対照表					<u>(単位 円)</u>
借方			貸方		
科目	期首	期末	科目	期首	期末
I資産の部			Ⅱ負債の部		
現預金	7,191,665	9,050,486	未払金	0	0
			An An A = 1	_	_
			負債合計	0	0
貸付金	4,500,000	4,500,000	Ⅲ. 正味財産の部		
			指定正味財産	0	0
流動資産合計	11,691,665	13,550,486	一般正味財産	20,213,191	84,668,863
			(うち基本財産への充当額)	0	0
学会活動積立金	3,500,000	3,500,000			
60周年記念基金	4,056,487	3,549,941			
75周年記念基金	965,039	922,519			
ISI基金	0	51,877,162			
ICP基金	0	11,268,755			
特定資産合計	8,521,526	71,118,377	(うち特定財産への充当額)	8,521,526	71,118,377
固定資産合計	8,521,526	71,118,377	正味財産合計	20,213,191	84,668,863
資産合計	20,213,191	84,668,863	負債及び正味財産合計	20,213,191	84,668,863

(注)貸付金は一般財団法人統計質保証推進協会宛 4,500,000円。 ISI基金はISI東京大会記念事業基金を意味する。 ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金を意味する。

特定資産の増減及びその残高

特定資産の増減及びその残高は次のとおりである

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	摘 要
60周年記念基金	4,056,487	624	507,170	3,549,941	増加額は預金利息 減少額は各賞等目的取崩
75周年記念基金	965,039	152	42,672	922,519	増加額は預金利息 減少額は出版賞目的取崩
学会活動積立金	3,500,000	0	0	3,500,000	
ISI基金	0	51,877,162	0	51,877,162	増加額の内預金利息 1,462 注1
ICP基金	0	11,268,755	0	11,268,755	注2
合計	8,521,526	63,146,693	549,842	71,118,377	

- (注1) ISI基金はISI東京大会記念事業基金を意味する。
- (注2) ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金を意味する。

監査報告書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の 2012 年 4 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類(正味財産増減計算書、貸借対照表)について 検討いたしました。

監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一. 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- ニ. 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な 事実は認められません。
- (2) 計算書類の監査結果

計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示して いるものと認めます。

2013年5月1日

一般社団法人 日本統計学会

第3議案 役員選任規程の変更に関する件 - 定款 細則第6条3

岩崎理事長より、資料に基づき、役員選任規程 第3条4を変更する(「改選年度の第1回通常理 事会において」を「選任後初回の理事会におい て」に変更)提案があり、審議の結果、提案を承 認した。

第4議案 ISI 東京大会記念基金運営委員会規則 の制定及び委員会規程の変更に関する件 - 定款細 則第6条3

竹村会長より、資料に基づき、ISI 東京大会記 念基金運営委員会を常設委員会とするための ISI 東京大会記念基金運営委員会規則(案)と、それ にともなう委員会規程の変更案とが示され、審議 の結果、提案を承認した。

第5議案 スポーツ統計分科会の延長申請に関する件-研究分科会規程第4条

竹村会長より、資料に基づき、スポーツ統計分 科会の延長が申請された旨報告があり、審議の結 果、延長を承認した。

報告事項 (理事会報告)

1. 会員の入退会

岩崎理事長より、資料に基づき、会員の入退会 について報告があった。

2. その他

とくになし.

報告事項 (委員会報告)

1. 2013年度連合大会について

岩崎理事長より、2013年度連合大会が、2013年9月8日(日)から11日(水)まで(8日はチュートリアルと市民講演会)大阪大学豊中キャンパスで開催され、会長講演と学会賞各種受賞者講演が予定されている旨報告があった。

2. 2013年3月開催の春季集会に関する報告

岩崎理事長より、2013年3月3日に学習院大学において春季集会が開催され、無事に終了したことが報告された.

3. 日本統計学会賞各賞受賞者について

竹村会長(表彰委員会委員長)より、資料にも とづき、学会賞各賞の受賞者の氏名と受賞理由と が報告された。

4. 2013年度欧文誌出版助成(科研費・研究成果 公開促進費)の交付内定について

岩崎理事長より、欧文誌出版助成(科研費・研究成果公開促進費)について、2013年度50万円の交付が内定したことが報告された。

5. その他

とくになし.

報告事項 (その他)

1. 学会活動特別委員会

鎌倉委員長より、報告事項がない旨報告された.

2. 学会組織特別委員会

岩崎理事長(狩野委員長代理)より,報告事項 がない旨報告された.

3. 統計教育委員会

竹内代議員(藤井委員長代理)より,報告事項 がない旨報告された.

4. スポーツ分科会

田村義保主査より提出された書面により、スポーツ分科会(2009年6月発足,2013年5月終了) について報告された。

5. その他

竹村会長より、産業界における統計の応用について日本統計学会の窓口を設けることを予定していたとの報告があり、意見交換の後、窓口となる臨時委員会の設置などの検討を次期理事会に依頼するとの報告があった。

今回の社員総会の終了をもって任期満了により 退任する竹村会長と岩崎理事長より,退任のあい さつがあった.

13. 臨時理事会・委員会報告

日時:2013年5月18日(土)12:00-12:45

場所:統計数理研究所サテライトオフィス会議室

出席者

理事: 竹村彰通会長, 岩崎学理事長, 上野玄太 (庶務), 西郷浩(庶務), 大野忠士(会計), 小 林正人(会誌編集・欧文), 青嶋誠(会誌編集・ 和文), 勝浦正樹(大会), 狩野裕(企画・行 事)(以上9名, カッコ内は役割分担)

監事: 矢島美寛, 美添泰人, 渡部敏明(以上3名) オブザーバー: 竹内惠行, 北村佳之

<第1議案> 2012年度事業報告について

岩崎理事長より提示された2012年度事業報告を 承認し、社員総会に提出することとした。

<第2議案> 2012年度決算について

岩崎理事長より提示された2012年度決算書を承認し、社員総会に提出することとした。

<第3議案> 監査報告について

矢島監事,美添監事,渡部監事より,資料に基づき,2012年度事業報告等および計算書類の監査の結果,適正な処理がなされているとの報告があった。

<第4議案> 役員選任規程の改正について

岩崎理事長より、資料に基づき、第3条4を変 更する提案があり、審議の結果、付則を修正した 上で、社員総会に提案することを承認した.

〈第5議案〉 臨時委員会の設置について

岩崎理事長より, ISI 東京大会記念基金運営委員会を臨時委員会として2013年1月1日に設置する提案があり,審議の上,承認した.

<第6議案> 常設委員会の設置について

岩崎理事長より、ISI 東京大会記念基金運営委員会を常設委員会とする提案があり、審議の上、承認した。また、この常設委員会設置に必要な委員会規程の変更案が示され、審議の上、社員総会に提出することとした。

<第7議案> 規則の制定について

岩崎理事長より, ISI 東京大会記念基金運営委員会規則案が示され,審議の結果,付則を修正した上で,社員総会に諮ることを承認した.

<第8議案> 会員の入退会

上野庶務担当理事より示された回覧資料に基づ き、内容を承認した。

<第9議案> 定時社員総会召集の件

竹村会長より、定時社員総会を以下のとおり招 集する提案があり承認した.

- 1. 日時 2013年6月15日 (土) 午後1時30分から
- 2. 場所 早稲田大学7号館1階ファカルティラウンジ奥ミーティングルーム
- 3. 会議の目的事項
- (1) 定時社員総会における通常の審議

委員会報告

日時:2013年5月18日 (土) 12:45-14:00

場所:統計数理研究所八重洲サテライトオフィス 会議室

出席者: 竹村彰通会長, 岩崎学理事長, 上野玄太, 西郷浩, 大野忠士, 小林正人, 青嶋誠, 勝浦正樹, 狩野裕, 矢島美寛, 美添泰人, 渡部敏明, 竹内惠行, 北村佳之

<報告事項>

1. 欧文誌委員会

小林委員長より、Vol.43, No.1 (2013年6月発行予定)の進捗状況と、同号までを現編集委員会が担当して次号から新編集委員会に引き継ぐとの報告があった。

2. 和文誌委員会

青嶋委員長より、第43巻第1号(2013年9月発行予定)とアーカイブにおけるカラー出力の利用、同号までを現編集委員会が担当して次号から新編集委員会に引き継ぐとの報告があった。

3. 大会委員会

勝浦委員長より,資料に基づき,2013年度統計 関連学会連合大会に関する報告があった.

4. 企画・行事委員会

狩野委員長より、2012年度春季集会(2013年3月3日学習院大学で開催)と、2013年度春季集会(2014年3月に同志社大学で開催予定)について報告があった。

5. 庶務委員会

上野委員長より,(1)会長選挙の結果について,2013年4月26日に会長選挙の開票が行われ,被選会長として国友直人候補が当選したこと,(2)欧文誌の出版助成(科研費・研究成果公開促進費)の交付が内定したが,これと関連する科研費・国際情報発信強化は不採択であったことが報告された.

6. 広報委員会

竹内委員より、会報 No.155が発行されたこと、連合大会第2報発表のタイミングが一因となって発行が若干遅れたことが報告された.

7. 表彰委員会

竹村委員長より,第18回統計学会賞,第9回統計活動賞,第9回統計教育賞,第7回研究業績賞,第27回小川賞の表彰者が報告され,社員総会への報告を経て公表することとした.

8. その他

竹村会長より,統計学会への講師派遣依頼については,理事長を通して内容を判断し,統計検定 に関するものは統計検定センターに依頼し,それ 以外の一般的な統計教育に関するものは統計教育 委員会に依頼するとの報告があった.

<審議事項>

- 1. **欧文誌委員会** 審議事項なし.
- 2. 和文誌委員会 審議事項なし.
- 3. 大会委員会 審議事項なし.
- 4. **企画・行事委員会** 審議事項なし.
- 庶務委員会 審議事項なし.
- 広報委員会 審議事項なし.

7. その他

- (a) 竹村会長より、資料に基づき、第5回横幹連合コンファレンスにおける講演発表の推薦が依頼されているとの報告があり、審議の結果、統計学会がステークホルダーである大学間連携(データに基づく課題解決型統計教育質保証)に関連するテーマで会長が横幹連合に推薦することを承認した。
- (b) 岩崎理事長より、資料に基づき、統計関連学会連合で草案された「統計家の行動基準」について検討したいとの提案があり、議論の結果、最初から完成度の高いものの作成を目指すのではなく、まずは行動基準を一通り作成することを目標に検討することを承認した。
- (c) 竹村会長より,資料に基づき,統計教育質保証推進委員の人選について提案があり,審議の上,提案を了承した.
- (d) 狩野委員長より、資料に基づき、The 3rd IMS-APRM における JSS の共催と DSL (1件)、IPS (3件) の推薦について、Invited Paper Session

頼するとの提案があり、審議の上、承認した.

のひとつを青嶋誠会員が担当することとし、あと 2つの IPS について新理事会に設定・人選等を依

14. 第1回通常理事会報告

日時:2013年6月15日 (土) 15:00-16:00 場所:早稲田大学7号館1階ファカルティラウン ジ奥ミーティングルーム

出席者:

理事: 国友直人会長,鎌倉稔成理事長,西郷浩 (庶務),三分一史和(庶務),大野忠士(会計), 西山陽一(編集欧文),谷崎久志(編集和文), 竹内恵行(広報),勝浦正樹(大会),渡辺美智 子(検定),宿久洋(企画・行事),中野純司 (国際)(以上、12名、カッコ内は役割分担)

監事: 竹村彰通, 矢島美寛(以上, 2名) オブザーバー: 村上秀俊, 椿広計

<第1議案> 会長及び理事長の選定について

西郷浩が選ばれて議長となり、会長 竹村彰通と理事長 岩崎学が任期満了により退任することとなり、会長選挙の結果国友直人が被選会長として選ばれ、被選代議員会において鎌倉稔成が被選理事長として選ばれた旨を述べ、慎重に協議した結果、会長選挙規程および役員選任規程に則り、全員一致をもって、以下のとおり選定した、被選定者は、席上、その就任を承諾した。

会長 国友直人 理事長 鎌倉稔成

以降の議長は理事長が務めることとした.

<第2議案> 常設委員会の委員の交代について 鎌倉理事長より、資料に基づき、以下の委員会 による委員の交代が提案され、審議の結果、承認 した。

学会活動特別委員会

浅井学委員, 岩崎学委員, 大林千一委員, 鎌倉 稔成委員, 国友直人委員, 栗原考次委員, 駒木 文保委員, 西郷浩委員, 佐藤学委員, 清水邦夫 委員,竹田裕一委員,田村義保委員,馬場善久 委員,藤越康祝委員,前田忠彦委員より青嶋誠 委員,狩野裕委員,栗木哲委員,佐藤美佳委員,神保雅一委員,杉山高一委員,竹村彰通委員, 西井龍映委員,村上征勝委員に交代(2013年6 月15日付)

学会組織特別委員会

赤平昌文委員, 牛澤賢二委員, 大屋幸輔委員, 狩野裕委員, 川崎茂委員, 栗木哲委員, 桑原廣 美委員, 瀬尾隆委員, 垂水共之委員, 塚田真一 委員, 藤井良宜委員, 渡部敏明委員より会田雅 人委員, 伊藤彰彦委員, 岩崎学委員, 鎌倉稔成 委員, 国友直人委員, 西郷浩委員, 田中豊委員, 田村義保委員, 中野純司委員, 福井武弘委員, 前園宜彦委員, 矢島美寛委員に交代(2013年6 月15日付)

欧文誌編集委員会

青嶋誠委員,金藤浩司委員,小林正人委員,冨澤貞男委員,内藤貫太委員,人見光太郎委員, 丸山祐造委員,若木宏文委員,Denis Bosq委員, Mare Hallin 委員,Anna C. Monti 委員,Winfried Stute 委員より小方浩明委員,加藤賢悟委員,栗 木哲委員,清智也委員,鈴木大慈委員,塚原英 敦委員,服部聡委員,増田弘毅委員,柳原宏和 委員,Chun-houh Chen 委員,Arnak S. Dalalyan 委員,Subhashis Ghoshal 委員,Richad D. Gill 委 員に交代(2013年6月15日付)

和文誌編集委員会

青嶋誠委員, 柿沢佳秀委員, 西郷浩委員, 福重 元嗣委員より川崎能典委員, 駒木文保委員, 照 井伸彦委員, 前園宜彦委員に交代(2013年6月 15日付)

企画・行事委員会

狩野裕委員, 山本渉委員, 熊谷悦生委員より宿

久洋委員,足立浩平委員,村上秀俊委員に交代 (2013年6月15日付)

庶務委員会

任期満了により、上野玄太委員、吉田清隆委員 より三分一史和委員、樋田勉委員に交代(2013 年6月15日付)

広報委員会

鈴川晶夫委員,羅明振委員,北村佳之委員より 西埜晴久委員,入戸野健委員に交代(2013年6 月15日付)

<第3議案> 臨時委員会の設置について

鎌倉理事長より、日本統計学会出版企画委員会 運用規則(案)に基づき、日本統計学会出版企画 委員会の設置について提案があり、審議の結果、 運用規則の文言を修正したうえで、日本統計学会 出版企画委員会運用規則及び日本統計学会出版企 画委員会の設置を承認した。

<第4議案> 会員の入退会(回覧)

鎌倉理事長より提示された回覧資料の内容を承認した.

15. 日本統計学会会長選挙開票報告

2013-2014年度会長選挙管理委員 竹内 秀一・渡辺 則生

本学会会長選挙規程第4条による2013・2014年 度会長候補者に対する選挙が行われ,2013年4月 26日に日本統計学会事務局において開票した結果. 国友直人氏が被選会長として当選しました. 有権者1,347名中, 投票数461, うち有効票数457で, 内訳は. 替444. 否13. 無効票数4でした.

16. 博士論文の紹介

最近の博士論文を原稿到着順に紹介いたします. (1) 氏名(2) 学位の名称(3) 取得大学(4) 論 文題名(5) 主査または指導教員(6) 取得年月 の順に記載いたします.(敬称略)

博士論文

● (1) 黒瀬雄大 (2) 経済学博士 (3) 東京大学 大学院経済学研究科 (4) Efficient Bayesian Estimation of Time Series Models and Its Applications (時系列モデルの効率的なベイズ分析推定とその 応用)(5)大森裕浩(6)2013年4月

- (1) Mohammad Manir Hossain Mollah (2) 博士 (農学) (3) 東京大学 (4) Robust Inference and Model Diagnosis of Microarray Data by β-Likelihood (5) 岸野洋久 (6) 2012年9月
- ●加部哲史(2)博士(社会経済)(3)筑波大学
- (4) On Estimating Structurally Changing Demand
- (5) 金澤雄一郎 (6) 2013年3月

17. 事務局から

学会費払込のお願い

2013年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入に

ご協力をお願い申し上げます. また便利な会費自動払込制度もご用意しています. 次の要領を参照の上. こちらもご活用下さい.

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに,氏名と住所を以下にお伝えください.手続きに必要な書類が送付されます.

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

(公財) 統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax: 03-3234-7738 E-mail: shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました. 謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます.

伊藤 幸雄 会員 小山 武信 会員

入会承認

明永駿佑, 荒宏視, 五十嵐岳, 石井一夫, 石井裕基, 井上暁光, 居林晴久, 岩澤政宗, 王文傑, 大滝盛司, 大津紘子, 小田剛士, 小高哲也, 川北哲史, 川久保友起, 河本哲, 貫名貴洋, 菊池宏和, 北島孝博, 木下亮, 小島将裕, 米田有香子, 齋藤周, 齋藤貴幸, 坂下佳一郎, 笹尾律, 髙橋淳一, 高橋慎, 武智昭憲, 田澤司, 田中晴善, 田上悠太,

寺脇博之, 德永旭将, 西内哲, 濱田健太, 久永忠, 平屋伸洋, 古屋俊和, 桝田秀章, 松井英俊, 松田孟留, 松本章邦, 松家宏幸, 眞鍋和弘, 村上雅俊, 村越雅司, 室谷健太, 森川耕輔, 矢野惠佑, 山澤成康, 山田宏, 山本祥武, 吉村有博, 渡辺秀一, 渡邉中穗美, Keynote Systems, Inc. Japan (敬称略)

退会承認

石川弘道, 磯貝英一, 岩井浩, 魚住龍史, 牛澤賢二, 岡田茂雄, 小野英夫, 折井智治, 片所強, 神崎秀嗣, 小坂弘行, 越塚知幸, 小林康幸, 宍戸邦彦, 柴崎佳幸, 杉野元亮, 高橋明彦, 中神潤一, 中須賀巧, 中塚利直, 西田卓馬, 西田信男, 野呂拓矢, 橋本敏夫, 兵頭明和, 宮岸秀明, 宮村理, 村岡良和, 山岡歳雄, 山崎政行, マツダ(株) (敬称略)

現在の会員数(2013年7月20日)

18名
1,392名
49名
1,459名
16法人
6団体

18. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益である と考えられるものなどについて原稿をお送りくだ さい、以下のような情報も歓迎いたします。

- ・来日統計学者の紹介 訪問者の略歴,滞在期間,滞在先,世話人など をお知らせください.
- 博士論文・修士論文の紹介

 (1)氏名(2)学位の名称(3)取得大学(4)論文
 題名(5)主査または指導教員(6)取得年月をお知らせください。

- 求人案内(教員公募など)
- 研究集会案内
- •新刊紹介

著者名,書名,出版社,税込価格,出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

できるだけ e-mail による投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します.

原稿送付先:

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-7 大阪大学大学院経済学研究科 竹内惠行 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL:
 - http://www.jss.gr.jp/
- 統計関連学会ホームページ URL:
 - http://www.jfssa.jp/
- 統計検定ホームページ URL:
- http://www.toukei-kentei.jp/
 住所変更連絡用 e-mail アドレス:
 - meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス:
 - koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス:
 - shom@jss.gr.jp